

## 福島第一原子力発電所 堰内たまり水に関する台風27号に向けた対策

## 1. 事前の堰内水位低下

○4,000m<sup>3</sup>ノッチタンク群、地下貯水槽へ移送し、堰内水位を予め低下。

2. 4000m<sup>3</sup>ノッチタンク群の容量確保

○4,000m<sup>3</sup>ノッチタンク群の貯留水を2, 3号機タービン建屋へ排出し、ノッチタンク容量を確保。

## 3. 移送設備の増強・移送能力向上

○堰内放射能濃度高エリア：移送設備（ポンプ、ホース、消防車）を増強

・ポンプ：60m<sup>3</sup>/h×19台、ホース：口径75mm（総延長6km）、消防車：5台

【対象エリア：H1東、H2南、H2北、H3、H4、H4北、H4東、H5、H6】

・堰内放射能濃度中エリア：4000m<sup>3</sup>ノッチタンク群、地下貯水槽までの移送用の  
パワープロベスター（3台（20m<sup>3</sup>）→6台（46m<sup>3</sup>））及び  
タンクローリー（3台（30m<sup>3</sup>））、消防車（1台）を増強

【対象エリア：B南、G6南】

・堰内放射能濃度低エリア：ノッチタンクに一時貯留・分析後、排水

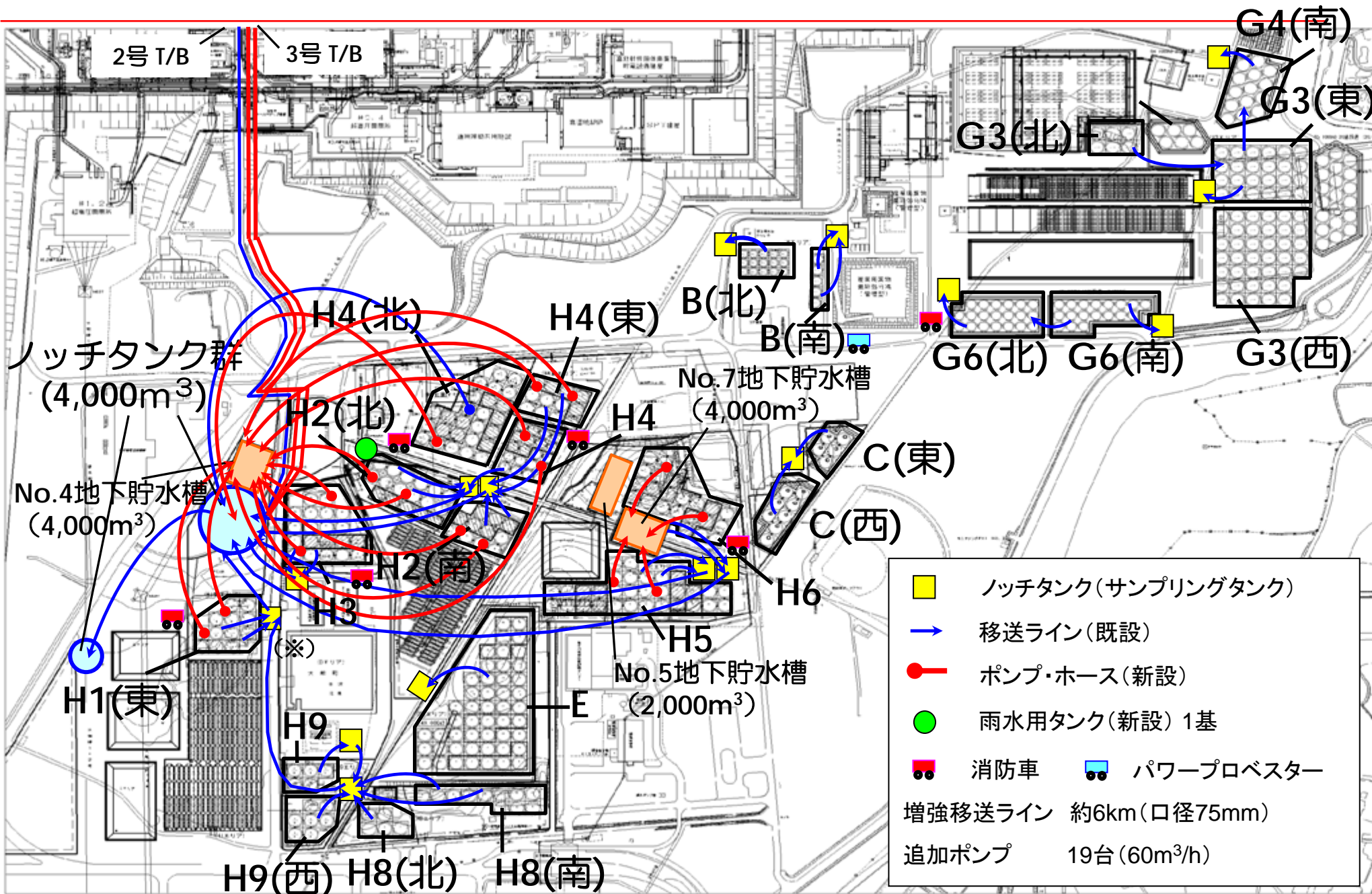
※豪雨の場合は、堰内から直接採取・分析後、排水

【対象エリア：B北、C東、C西、E、H8北、H8南、H9、H9西、G3北、G3東、G4南、G6北】

## 4. 雨水受けタンク容量の増加

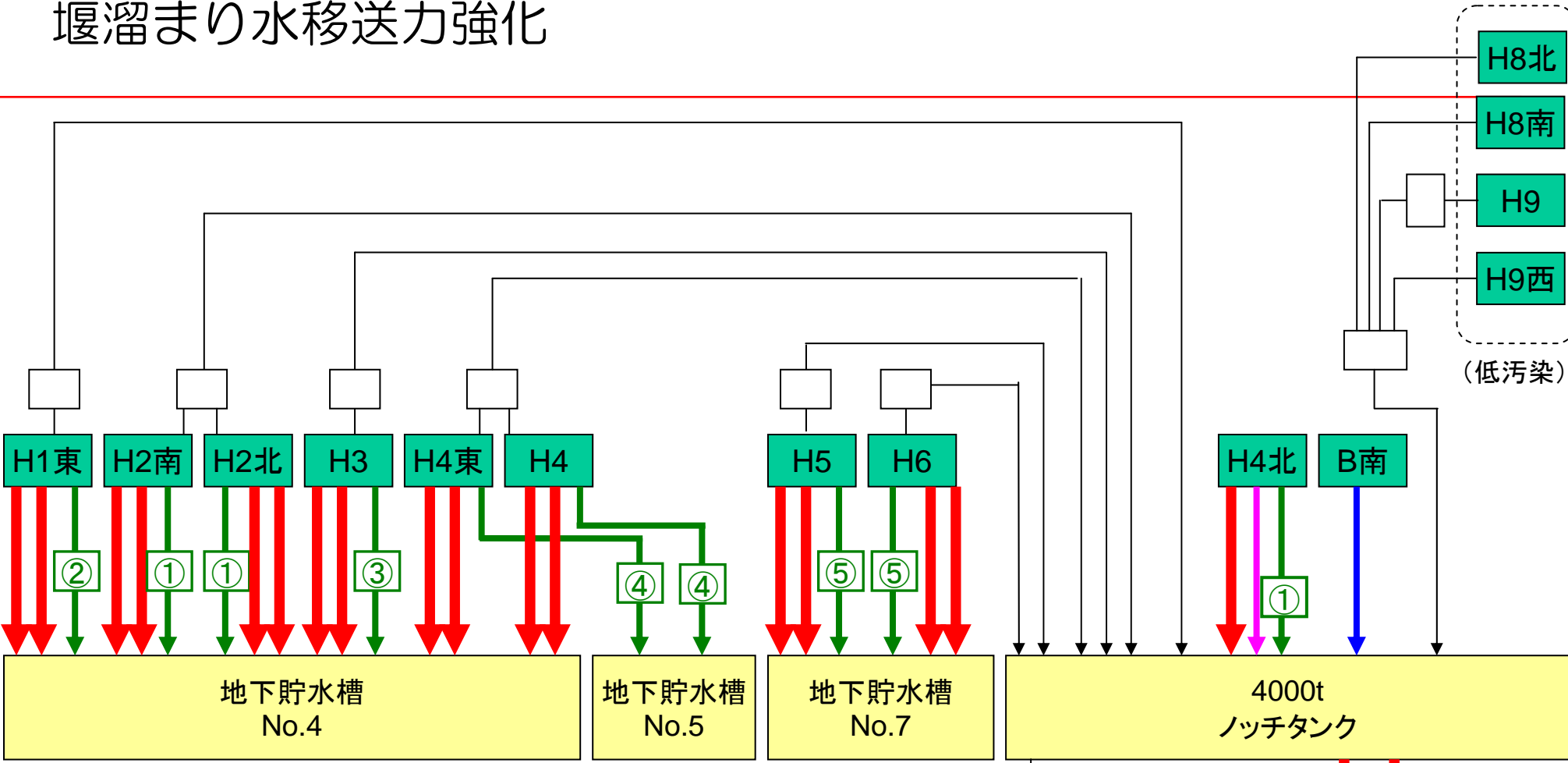
○H2エリア近傍に雨水受けタンクを設置（500m<sup>3</sup>級×1基）

# 堰内溜まり水移送設備の概要

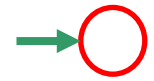




- ノッチタンク(サンプリングタンク)
- 移送ライン(既設)
- ポンプ・ホース(新設)
- 雨水用タンク(新設) 1基
- 消防車
- パワープロベスター
- 増強移送ライン 約6km(口径75mm)
- 追加ポンプ 19台(60m<sup>3</sup>/h)

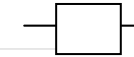
# 堰溜まり水移送力強化





(低汚染)


  
 500m<sup>3</sup>タンク  
 (H2エリア)


 60m<sup>3</sup>/h、75mm (新設)  
 30m<sup>3</sup>/h、75mm (既設)

 12 or 24m<sup>3</sup>/h、50mm、中継ノッチタンク (既設)

 パワプロベスター  
 消防車 (①~⑤) ※⑥はG6エリアに配備

 500m<sup>3</sup>タンク (消防車で移送)



 東京電力 12m<sup>3</sup>/h、50mm (既設)

# 台風及び豪雨への対応（※堰内の水が暫定基準を超えたもの）

